

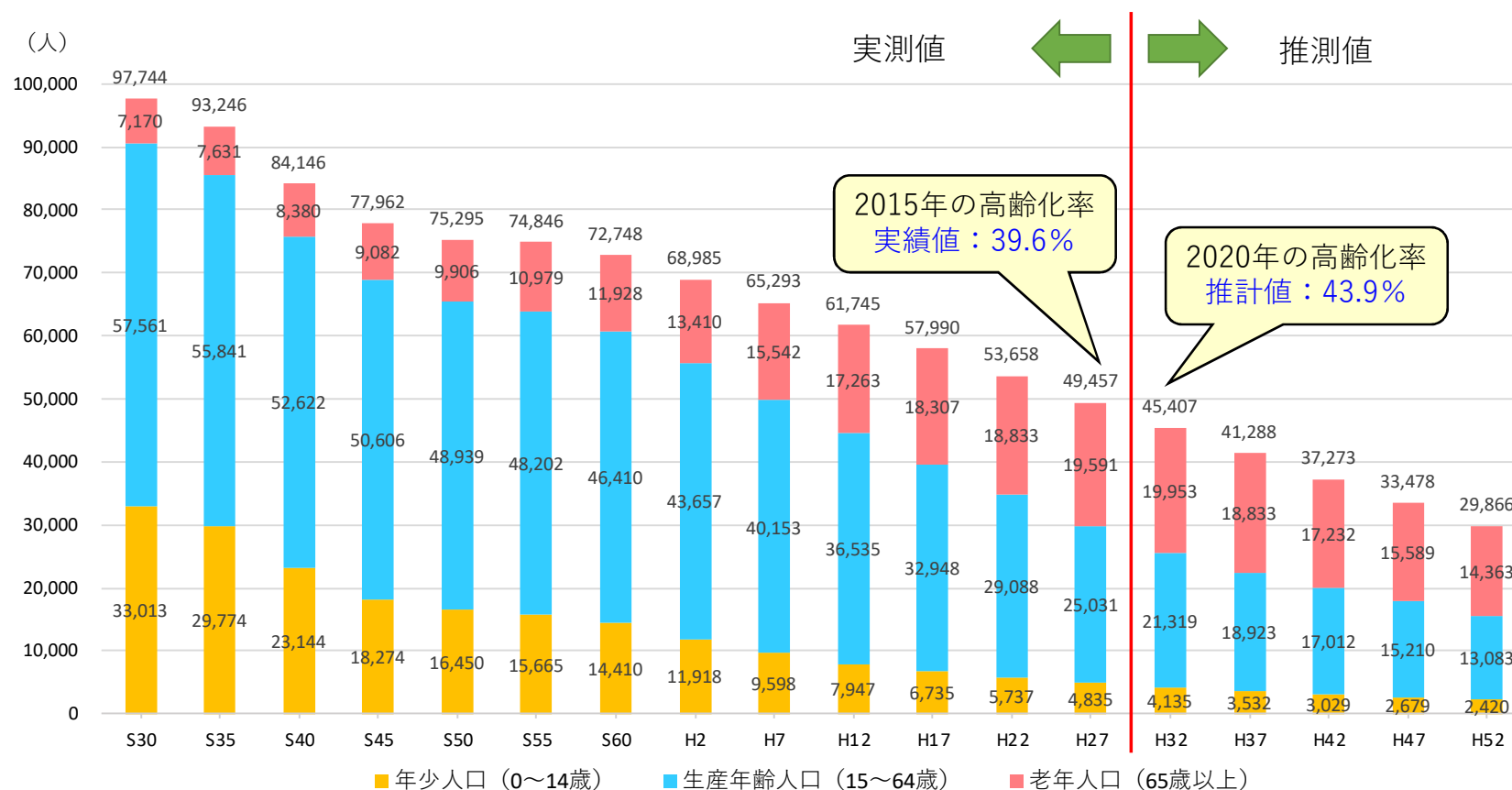
萩市全域の公共交通の現状と課題 及び基本方針(案)について

地域意見交換会

- **萩市地域公共交通網形成計画について**
- **公共交通の現況調査について**
- **萩市全域の公共交通の現状と課題及び基本方針(案)について**

萩市地域公共交通網形成計画について

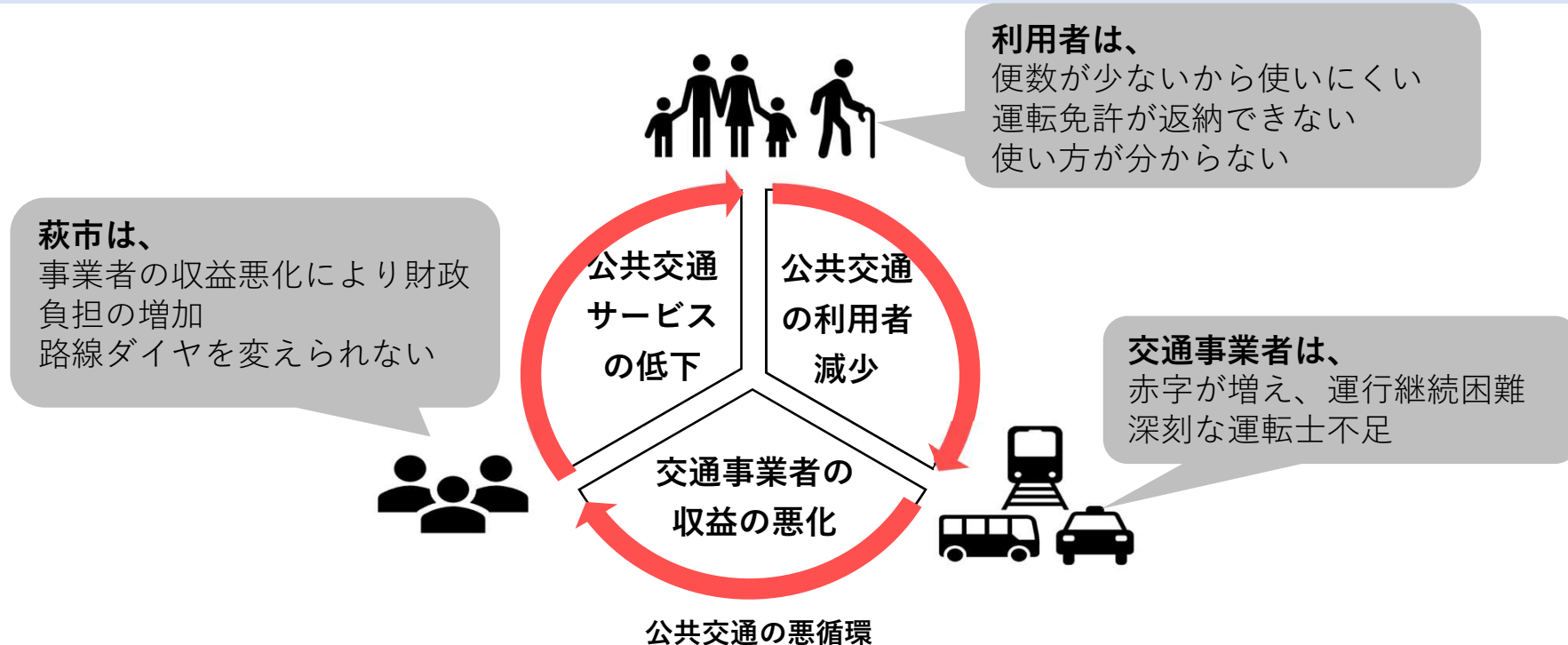
- 萩市の人口は、昭和30年をピークに減少の一途にあり、2020年の予測では人口は4.5万人となり、高齢化率（65歳以上人口）は43.9%に達するとされています。
- 萩市は、都市部から中山間地域や離島まで様々な地域があり、どの地域においても「地域公共交通をどのように守っていくか」ということが地域活性化や生活の根幹をなす重要な課題となっています。



出典：国勢調査 (S30~H27)、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成25年3月推計）(H32~H52)

萩市地域公共交通網形成計画について

- 地域の公共交通を考える際に最も重視すべきことは、自ら移動する手段を持たない高齢者などの「交通弱者」の方の移動手段を確保することで、現在、日常的に自家用車を運転している住民の方であっても、将来自ら運転することが難しくなった場合の移動手段として公共交通を維持することは、地域全体の課題と言えます。
- しかしながら、現状は利用者の減少に伴い、公共交通事業者の経営環境は年々厳しさを増しており、深刻な運転士不足も相まって、減便や路線の廃止、運賃値上げなどサービス水準の低下を招き、そのことでさらに利用者が減少するという「悪循環」に陥っています。
- 交通事業者の経営努力だけでは、この悪循環を止めることは困難であり、地域の課題に対して市と地域住民、交通事業者の協働による「持続可能な公共交通」を実現していく取組が必要です。「萩市地域公共交通網形成計画」は、将来にわたり持続可能な公共交通の「将来像」を定め、その実現に向けた取り組みとなるもので、地域意見交換会などを通じて、各地域の現状と課題や将来像についての方向性を定めます。



公共交通の現況調査について

- 公共交通に対する潜在的なニーズや、利用促進のための改善点などを把握するため、市民の移動実態や公共交通の利用実態に関する以下の調査を実施しました。（平成30年7月～9月に実施）

| 分類 | 調査項目 | 調査実施概要 | 実施状況 |
|------------|-----------------------------------|---|---|
| 市民移動実態調査 | 住民アンケート調査 (65歳以上) | 市内に居住する65歳以上の方を対象に移動実態を調査 2,000名を無作為抽出し、民生委員による配布・回収 | 7月に実施 回収数：1,705票（85%） |
| | 民生委員アンケート調査 | 市内各地区の交通弱者の状況、移動に関する課題を調査 民生委員173名の方に対し、直接配布・郵送回収 | 7月に実施 回収数：145票（83%） |
| | 高校生アンケート調査 | 萩市内及び周辺自治体の高校を対象に移動実態を調査 (萩市：萩高校、萩光塩学院高校、萩商工高校、長門市：長門高校、阿武町：萩高校奈古分校、益田市：益田高校、益田翔陽高校、明誠高校) | 7月～8月末まで実施 回収数：888票（90%） |
| 公共交通利用実態調査 | 路線バス乗込み調査 | 防長交通、中国JRバス、石見交通、萩市（まあーるバス）の運行する市内全路線全便に乗り込み、利用実態を調査 | 防長交通：7月7日～15日に実施 中国JRバス：7月13日, 14日に実施 石見交通：8月29日, 9月9日に実施 まあーるバス：7月7日, 11日に実施 平日：1,299人/日、休日：1,959人/日 |
| | ぐるっとバス利用状況調査 (小原地区デマンドタクシーも含む) | 萩、旭、川上、福栄、むつみ、須佐、田万川の7地域において様々な運行形態が存在する（定時定路線、デマンド、複合型） 運行形態に合わせて調査を実施（運転手による乗降記録、予約者名簿の集計） ぐるっとバスの運行主体へのヒアリング | ・運転手による乗降記録(9月) ・総合事務所提供資料より、利用状況の整理 ・運行主体へのヒアリング（9月） |
| | JR調査 | ・市内9駅（飯井、三見、玉江、萩、東萩、越ヶ浜、長門大井、須佐、江崎）で返信用封筒付きのアンケート票を直接配布、郵送による回収を実施 ・高齢者や待機されている方には聞き取り調査を実施 ・全便の乗降者数のカウント | ・9月9日, 9月10日に実施 ・508人から聞き取り ・50人からの返信 ・平日 1,081乗降者数/日 休日 548乗降者数/日 |
| | フェリー調査 | 相島、見島、大島の3航路で乗込み、利用実態を調査 | 8月27日, 8月28日に実施 443票/日 |

萩市全域の現状と課題及び基本方針(案)について

- 利用者目線で見えた移動の現状と課題（アンケート調査結果を中心に整理）、公共交通の運行面からみた現状と課題（公共交通の利用実態調査結果を中心に整理）や上位計画・関連計画及び国の方針を踏まえつつ、萩市全域の「目指す地域公共交通網の将来像」及び「基本的な方針(案)」を検討しました。

活性化・再生の促進に関する基本方針

上位計画・関連計画

利用者目線で見えた移動の現状と課題



高校生、高齢者を中心とした利用者目線
(アンケート調査結果を中心に整理)

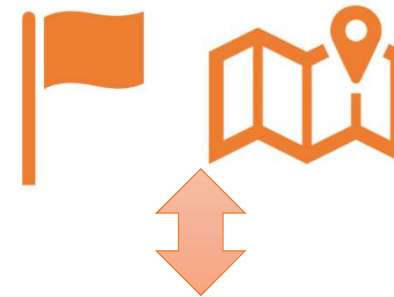
公共交通の運行面から見た現状と課題



JR、路線バス、まあーるバス、ぐるっとバス等の
公共交通の運行面（交通事業者、萩市）
(公共交通の利用実態調査結果を中心に整理)

目指す地域公共交通網の将来像

上位計画・関連計画及び国の方針を踏まえつつ、
基本的な方針と整合性のとれた地域公共交通の将来像



基本的な方針(案)

現状・課題を元に定める
地域公共交通の将来像を実現するための基本方針

基本方針 1

基本方針 2

基本方針 3

基本方針 4

萩市全域の現状と課題及び基本方針(案)について

利用者目線で見た移動の現状と課題

①利用者の声に寄り添った公共交通網の構築

▶ 住民アンケート調査などで明らかになった利用者の声に寄り添った公共交通網を構築するためには、総合的な観点から公共交通の在り方を検討する必要がある。

②高齢化の進展による高齢者の移動手段確保

▶ 今後、特に高齢者の一人暮らし世帯などにおいて移動が困難となる方が増加することが予想され、高齢者の移動手段を確保する必要がある。

③地域毎に異なる目的地や移動ニーズに対応した公共交通網の構築

▶ 高齢者の生活行動は、域内外や他市町など地域毎に移動ニーズが異なっており、それらのニーズに対応した公共交通網を構築する必要がある。

④公共交通で成り立つ通学環境

▶ JRや路線バスにより萩市内外の高校への通学手段が確保されており、通学需要を十分に考慮した上で公共交通網を構築する必要がある。

⑤観光客の移動手段確保

▶ 観光利用されているJRや路線バスは、観光客の利便性も考慮した公共交通網を構築する必要がある。

公共交通の運行面から見た移動の現状と課題

①多様な移動手段の効果的な融合による、住民に密着した公共交通網の形成

▶ 広大な市域を有する萩市には、多様な移動手段が存在しているが、より住民に密着した公共交通網を形成するため、各交通資源を効果的に融合する必要がある。

②公共交通の運転手の高齢化及び運転手不足

▶ 運転手の高齢化や運転手不足により、現在の路線を維持する事さえ困難になっており、運行の効率化や運転手の確保が必要である。

③利用者ニーズに応じた路線の見直し

▶ 公共交通利用者の減少に伴い、路線を維持するための萩市の財政負担も増加しており、利用者のニーズに応じた路線の見直しの検討が必要である。

④幹線と支線の役割分担と交通結節機能の充実

▶ 重複する路線の解消や幹線と支線の交通結節点の機能強化など、幹線と支線の役割分担の見直しの検討が必要である。

⑤隣接自治体との広域的な連携の必要性

▶ 市境をまたぐ広域的な幹線が多く、隣接自治体と連携しながら幹線の見直しの検討を進める必要がある。

萩市全域の現状と課題及び基本方針(案)について

利用者目線で見た移動の現状と課題

- ① 利用者の声に寄り添った公共交通網の構築
- ② 高齢化の進展による高齢者の移動手段確保
- ③ 地域毎に異なる目的地や移動ニーズに対応した公共交通網の構築
- ④ 公共交通で成り立つ通学環境
- ⑤ 観光客の移動手段確保

公共交通の運行面から見た移動の現状と課題

- ① 多様な移動手段の効果的な融合による、住民に密着した公共交通網の形成
- ② 公共交通の運転手の高齢化及び運転手不足
- ③ 利用者ニーズに応じた路線の見直し
- ④ 幹線と支線の役割分担と交通結節機能の充実
- ⑤ 隣接自治体との広域的な連携の必要性

目指す地域公共交通網の将来像(案)

市民の暮らしを支える利用しやすい交通ネットワーク！



基本的な方針(案)

- ① 市民の日常生活を支える生活交通網の構築
- ② 多様な公共交通の組み合わせによる、より効果的な公共交通網の再構築
- ③ 行政・市民・交通事業者等の連携・協働による、持続可能な公共交通の維持・確保
- ④ 豊かな暮らしと観光交流のまちづくりに寄与する公共交通網の構築

萩市全域の基本方針(案)について

基本的な方針(案)

①市民の日常生活を支える生活交通網の構築

地域毎に異なる移動ニーズに対応した、誰もが利用しやすい、市民の日常生活を支える生活交通網を構築する。

- 案 : まあーるバスの運行ルートやぐるっとバスの運行形態の見直し
: 福祉施策による高齢者の利用しやすい移動手段確保の検討
: 利用しやすい運賃の設定や運転免許証自主返納者の公共交通利用支援
: 市中心部と周辺地域の住民の利用者負担の在り方の検討
: 待合環境及び乗継環境の整備

②多様な公共交通の組み合わせによる、より効果的な公共交通網の再構築

利用の低迷や幹線と支線の重複運行、また、運転手不足等の問題を踏まえると、現在の運行形態のまま公共交通網を維持し続けることは難しい。

路線バス・コミュニティバス・デマンド交通等の限りある交通資源の組み合わせにより、利便性を維持しながら、より効果的な公共交通網を再構築する。

- 案 : 幹線と支線の役割分担の明確化
: 各交通機関の交通結節機能の強化
: 路線バスから代替交通手段への総合的な見直し
: 旧市町村区域を越えた運行形態の見直し

③行政・市民・交通事業者等の連携・協働による、持続可能な公共交通の維持・確保

利用者の減少や運転手不足など、公共交通事業者の経営努力だけでは地域の公共交通を維持・確保できない。また、行政の公共交通の維持に係る費用負担の増大という課題などを踏まえ、住民も含めた三者が一体となった新たな公共交通網を形成する。

- 案 : コミュニティ交通の確保と取組に対する支援の検討
: 運転手の確保対策
: わかりやすい公共交通情報の提供と利用促進

④豊かな暮らしと観光交流のまちづくりに寄与する公共交通網の構築

市域を跨ぐ広域的な幹線が多いため、生活圈や広域的な観光周遊を支える幹線の維持・確保を、隣接自治体や県、交通事業者と連携しながら進める。

- 案 : 公共交通の活用による、お出かけの促進
: 市域を跨ぐ路線バスの見直し、広域移動と生活移動を両立するダイヤ設定
: JRの観光列車、スーパーはぎ号と市内の公共交通が連携した観光周遊ルートの検討
: バスロケーションシステムや交通系ICカードの導入支援